

日本神経学会 第4回専門医育成教育セミナープログラム

日 時：2014年11月1日（土曜日） 時間：12:55～20:40（当日の受付 12:15～12:55）

場 所：セミナーハウス クロス・ウェーブ船橋（1階講堂ほか）

【住所】 〒273-0005 千葉県船橋市本町2-9-3

【TEL】 047-436-0111 【FAX】 047-436-0112

【交通】 JR線 船橋駅より徒歩10分（東京駅から総武線快速で25分）

京成線 船橋駅より徒歩7分

なお、駐車場（平面駐車3台・立体駐車23台）はご予約制で無料にてご利用可能です。

Tutor：神経診察： 安藤 哲朗（安城更生病院 神経内科 部長）

亀井 聡（日本大学医学部 内科学系 神経内科学分野 主任教授）

楠 進（近畿大学医学部 神経内科 教授）

幸原 伸夫（神戸市立医療センター中央市民病院 神経内科 部長）

橋本洋一郎（熊本市市民病院 神経内科 部長）

高次脳機能診察： 鈴木 匡子（山形大学大学院医学系研究科 高次脳機能障害学 教授）

武田 克彦（国際医療福祉大学三田病院 神経内科 部長）

福井 俊哉（かわさき記念病院 病院長，昭和大学神経内科 客員教授）

森 悦朗（東北大学大学院医学系研究科 障害科学専攻高次脳機能障害学 教授）

講 演：安藤 哲朗，武田 克彦，幸原 伸夫，村山 繁雄

参加人員：申込先着80名

対 象：神経内科専門医試験受験予定の神経内科医が主体。診察技能のブラッシュアップや知識整理希望の専門医も歓迎します。但し、専門医クレジットは付与されません。

申込方法：2014年10月6日（月）必着でメール（jsn-2@gol.com）にてお申し込みください。

（㊟ジェイ エス エヌ - 2 @ジーオーエル .シーオーエム となります。宛先入力はお間違えのないようお願い致します。）

件名に「第4回専門医育成教育セミナー参加申し込み」、本文に「会員番号」「所属」「氏名」を記載し送信してください。（お車でのお越しをご希望の方は、その旨もご記載ください）その後参加費の振込用紙をお送りいたします。お振り込みの確認が出来次第、受講書（ハガキ）を学会誌発送先ご登録住所宛てに発送致します。

参 加 費：20,000円（夕食代を含む）

セミナーテキスト：神経学会HPの会員専用ページ内の専門育成教育セミナー欄にuploadされますので、各自プリントアウトしてお持ちください。

ダウンロード用ID・PWは、開催二週間前にメールにてお知らせ致します。当日の予備はございませんのでご注意ください。

プログラム

部会長挨拶：12:55～13:00（会場：1階講堂）

1. 13:00～14:00（会場：1階講堂）

座長 橋本洋一郎（熊本市民病院 神経内科 部長）

演者 安藤哲朗（安城更生病院 神経内科 部長）

演題 筋力・感覚・反射の実戦的神経診察—特に上肢のしびれ・脱力を訴える患者について—

2. 14:00～14:50（会場：1階講堂）

座長 森 悦朗（東北大学大学院医学系研究科 障害科学専攻高次機能障害学 教授）

演者 武田克彦（国際医療福祉大学三田病院 神経内科 部長）

演題 高次脳機能障害への視座

14:50～15:10 コーヒーブレイク（会場：1階111中研修室）

3. 15:10～18:00（会場：2階，3階各部屋）

演習 1グループ10名で①～⑧グループに各自移動し分かれる。

	神経診察		高次脳機能診察	
15:10～	212	グループ①：亀井 聡	213	グループ⑤：鈴木 匡子
	223	グループ②：安藤 哲朗	224	グループ⑥：森 悦朗
	321	グループ③：橋本洋一郎	322	グループ⑦：武田 克彦
	323	グループ④：楠 進	324	グループ⑧：福井 俊哉
16:30 16:40	小休止		小休止	
～18:00	212	グループ⑤：亀井 聡	213	グループ①：鈴木 匡子
	223	グループ⑥：安藤 哲朗	224	グループ②：森 悦朗
	321	グループ⑦：橋本洋一郎	322	グループ③：武田 克彦
	323	グループ⑧：幸原 伸夫	324	グループ④：福井 俊哉

18:00～18:50 夕食（会場：4階レストラン）

4. 18:50～19:40（会場：1階講堂）

座長 楠 進（近畿大学医学部 神経内科 教授）

演者 幸原伸夫（神戸市立医療センター中央市民病院 神経内科 部長）

演題 そうだったのか！針筋電図

5. 19:40～20:30（会場：1階講堂）

座長 亀井 聡（日本大学医学部 内科学系 神経内科学分野 主任教授）

演者 村山繁雄（東京都健康長寿医療センター 高齢者ブレインバンク 研究部長）

演題 わかりやすい中枢神経疾患の病理

6. 20:30～20:40（会場：1階講堂）

アンケート記入および部会長挨拶

20:40 終了

編 集 後 記

今年の神経学会学術大会も一般演題数、参加者数とも過去最高と記録づくめの活況で終わり、教室の創立 50 周年の記念すべき年に開催された大会長校の九州大学神経内科学教室の意気込みを感じさせるものでした。日本で初めての神経内科部門である九大神経内科が設立された 1963 年は、また進行性核上性麻痺 (PSP) が初めてトロント大の Richardson らにより学会報告された年でもあります。その報告は早くも学会発表の翌年には当時 Neurology のレジデントであった Steel を筆頭著者として、神経病理を指導した Olszewski とともに 3 名の著者名によって雑誌論文となって世に出されました。学会発表の翌年ということは、学会発表の頃にはすでに投稿原稿はほぼ完成していたと推測できます。始め Richardson の患者の剖検脳を検索した別の神経病理学者は脳炎後パーキンソンニズムと診断したのが Richardson はその診断に納得せず、Olszewski の元で神経病理を再検討することを Steel に勧めたそうです。その点でも Richardson の慧眼には感服します。Richardson は最初

に PSP の患者に邂逅してから発表までの 9 年間に 9 名の患者を発掘し、しかもその内の 7 名は剖検による神経病理学的検討を行っています。この PSP の原著論文はいかにして新しい疾患単位が打ち立てられるかを示すもので、若い神経内科医にはぜひ一度この論文を紐解くことをお勧めします。

今回の学会でも多数の発表がなされたわけですが、それが雑誌論文となってこそ完成形となることは言うまでもありません。神経学会では英文誌も創刊され、和文論文を主とする本誌とともに車の両輪となって、学会員の発表の場が広がっています。本誌は症例報告が多くを占めていますが、PSP の原著にみるように疾患の研究の始まりには症例報告があります。心が揺さぶられるような症例を経験したら文献を渉猟して、論文に仕上げてください。チャンスは今かもしれません。

(森 秀生)

〈編 集 委 員〉

編集委員長 鈴木 則宏 編集副委員長 河村 満
 編集委員 荒木 信夫 飯塚 高浩 池田 昭夫 亀井 聡
 瀧山 嘉久 西野 一三 野村 恭一 星野 晴彦
 編集委員 (幹事兼任) 園生 雅弘 高尾 昌樹 森 秀生

〔臨床神経学〕 第54巻 第8号 平成26年8月1日発行
 編 集 者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 一般社団法人日本神経学会
 発 行 者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 高 橋 良 輔
 印 刷 所 〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入 中西印刷株式会社

発 行 所 〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル
 日 本 神 經 学 会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス : <http://www.neurology-jp.org/>